



獨語
完



服部文庫
117
///



在幸先生独語

全

いささ事いさぬ色服やふりよき成と古人の
云(初)ハ祿たるいさぬとてさう事いさぬ人
いさぬ色服を得いさぬいさぬとてさうと服あつた色
いさぬいさぬいさぬとてさうと服あつた色
事なる

世に和歌をぬむ人多きれ此和方の所と知る
人(初)ハ色二十一字とてぬむ人(初)ハ多きれ
万(初)集古(初)集(初)入(初)和(初)の(初)和(初)と(初)讀(初)出(初)人(初)と
い(初)さ(初)ぬ(初)和(初)父(初)母(初)も(初)よ(初)初(初)和(初)を(初)ぬ(初)む(初)と(初)ぬ(初)む(初)



八九歳の比るに二十一字を流しぬるよし成りし十歳
 ころより二十二字までみまひて此の奇を凡の音を
 としめりし時をたてて友とるべし奇蹟たりしを
 人ふんむる事も時書流しぬる一筆の奇なり
 其時の奇より奇を流しぬることと思ひし十又
 歳の時より先して詩をいふ事ありし時七
 歳の絶るれとて綴るよしとて其時思ひしを
 つめ思惟しりし奇を流しぬるよし成り
 しかる家の人のこと越ゆる事成りしをいふこと
 家の下よりかゝるらん口傍侍は其家の人も事なり
 といふ道小たわりの云下小をさるる所ありし

いふ前後りしと止む詩を他の事とあらはれり
 定む書付る事なり和名の及古を悉く脱捨し一
 首も詩にあらざりし詩とめしむるよしとて
 二十年と経く所詩のりしとて其れと利天姓を
 けりしよりよめを以て和名も待りしとて其れと事
 八誰も肩負ふことせしむるよしとて其れと事
 乃も心よりし知れば凡唐土も和名も凡俗同一
 ころとて其れも詩に奇とるるよしとて其れと事
 子細に其國を我國もたもたし人信をいふ事
 何れも詩も奇を心の声とて其れと事
 ぶるものも其れは唐も和名も詞の事なりといふ事

と云ふ事いふとありて詩と奇と其の因
と云ふは及之なりふ其因も我國と人の詞を以て
邦に及ぶ詩も奇と時世を以て以體もさし
詩も終と末の世に於て首ふおりの風作の
作のありふ其詞のありは理と覚悟し
古の古の風作といふ古の詞と其用も
古の人もいふおりの詩のありは
と云ふ事いふと奇と其の因もさし
我れ奇のありと其の因もさし
古の古の風作といふ古の詞と其用も
古の人もいふおりの詩のありは
と云ふ事いふと奇と其の因もさし
我れ奇のありと其の因もさし

奇の因もさし
漢魏の古詩とてと意と稽古
古の古の風作といふ古の詞と其用も
古の人もいふおりの詩のありは
と云ふ事いふと奇と其の因もさし
我れ奇のありと其の因もさし
古の古の風作といふ古の詞と其用も
古の人もいふおりの詩のありは
と云ふ事いふと奇と其の因もさし
我れ奇のありと其の因もさし
古の古の風作といふ古の詞と其用も
古の人もいふおりの詩のありは
と云ふ事いふと奇と其の因もさし
我れ奇のありと其の因もさし

人と友則一人大日記しそむ位の官人なり貫之ハ又下
と見ゆ新垣ハ甲斐の月志家ハ以舊の存をたれば
地下の紙もも者たしけ集皆奇なる違ハる故
撰集の初と文をり況やその世の奇は書徴の時
多岐の言位の人ぬ何としくよよのまや歌小眼
るははよる歌の名あり奇なり定らるる人を
がむ上の世と思ひて甚然判批判と書ハる
事なり物も名判のありてよよのめく不倫道と書
よ而んと早しき名あり秘訣と書て世ははるん
りく思とよよ奇は師は漸くよよ及
和奇の書ハる文をてく讀くよよおられん事

○歌の集
ありて
いふに
かた

いふより人ハ及のく書とる漢方ハ一既ハ書と讀
わたりて万葉集より二代集までと撰出ハる
讀を大なるむすく一初と奇人ハ朝夕歌
下も自然小凡詞も物なり其間ハ古人伝承ハ
奇字の書と修ハるも知る一甚とめくハむも
月小射ハ人情奥感のこころ自然小字一字と
秘秘と包ハ是美の奇とて上代の人奇を皆ハ
心と漢ハくわも上代の人自然の風俗とて
秘を漢也ハ師小字ハ人ハるハるハるハるハ
皆く奇とくは漢世ハ風俗物ハ人ハるハるハ
及くハ板ハるハるハるハるハるハるハるハる

事うのしめ 詩を異國の詞なり 奇を我々の詞なり
詩よりゆきか 甚安事をり 其の西はいとを
まらまのさうしめあし 古の旗山なり 及ぬは
さうのしめ 吾友服部子遷 和言のれをわたりて
後よ詩とそむ 詩乃道成候 遂よよのえとわ
らうこれわらぬぬの人 吾輩の云詩と化のれを
解せせしめあし けりよの悟と聞き 吾輩の
詩とそむしめ 小和奇とそむ 必古人よ及らる
し 多の人の中 小傑の人のなり ちあはる
んか 公家の人 和言の道と古より 和言の事とそむ
まらまのさうしめ 和言の道と古より 和言の事とそむ

知る者ありて 欲しき事あり 今の士庶人我は
詩と化し 詩とそむ 道と化し 和言とそむ
一己の精ありて 奇なりと候 今代の小傑なるの
奇と候を 身の後 知る者ありて 和言
自れありて 後よのしめ ちあはる 和言の道
さうの 陽春白雪の曲を 和言の者なり 和言
の士ありて 和言の者なり 和言の者なり 和言
下里巴人の曲と 和言の者なり 和言の者なり 和言
和言の者なり 和言の者なり 和言の者なり 和言
和言の者なり 和言の者なり 和言の者なり 和言

程の
△が先
和言
和言

同しなるなりし不云和字ハ人鷹赤人の介と系
 乃業平と云ふと云はし伝珠相傳のふれり
 奇縁かたなり多し月わあしりの字と云ふは
 の感慨をわたりわすれの奇き古の辭世の
 後唱たり惟るのほろりとさしむまの
 せしわとれはまうととく讀ましむ
 の後きとりのこわしは片断の心行の介
 何つるやせいとさしむ

毛詩子蕭馬鳴也

左筆先生独語卷之二

毛詩子蕭馬鳴也 旆社と云軍中への物なほと云
 馬のいふくんと旆の風を印とくんとするのこゝに地と云
 事なきと此面白く云ふは楚詞は媚と中社何
 在ぬ本系下としふ秋風をくんと吹く時何處
 波を湖邊のあふりしと云ふは此のこゝに
 へししよまむししと云ふは此面白く吟詠す
 ハ湖邊の秋の音を今と目赤し何れは
 今不帰春草生や暮れといふ人となつしむ浪か
 ち感慨なり是ハ毛詩の徳也と和字と此意なり
 なるは此意といふは一夜の字は月小とありしむ

狭き
てもよよ集りて會わぬ人小ははよりまをくも
つゝ盛念ゆもいづれもこのく其うはむとあり
らほの拭いとけと熱むを後ゆく口すきく
ほいづれも集りて一客小も魚二ツの集候
熱くも集りてよきたの人とこし候くはの人小傳ふ人
あきも小人少くもいずる未だ人残なく飲
其集候を移りよきたの人おそ子細ふんを
事とあきく又治たの人お傳ふはの人こ子細ふんを
事小傳ふ未だ人残なく事たの人見おそく
此一客人一曰小謝詞とて此首と治り集候
候ともい見治り集りて此首と治り集候

よる見らるる程の恥羞ふあはれはと見え候と
候は候となくと子細とといへるは候となく
若きと見えとわむ候ふもとわむは方何事と
の事と事とあきくは候ふもとわむは方何事と
田代は傳す維摩居士の方丈の室より今が
いづれも集りてよきたの人とこし候くはの人小傳ふ人
あきも小人少くもいずる未だ人残なく飲
其集候を移りよきたの人おそ子細ふんを
事とあきく又治たの人お傳ふはの人こ子細ふんを
事小傳ふ未だ人残なく事たの人見おそく
此一客人一曰小謝詞とて此首と治り集候
候ともい見治り集りて此首と治り集候

論

又のぎきこも
不わねあしこも家の化しつる流くの細皮少をせりて
ゆなひをいしきまるともまき茶人の家居るる必す柱
たしむかとも隆子の細皮も用ふるえぬいふ細す
或を丸くゆぐく柱と皮をいしき目のかし物敷をいし
りて身も物喰をいしきと芝のころこひ年に行き成り
す今茶人の物敷等といふ茶と何事とゆつたのて
松とゆつたゆつたわりの茶の道り起ると尋の隆子といふ南
朝のいし茶飲しく始まるといふ唐の代にありて世も
いしる盧全隆相高きとてゆつた盧全の茶の初と化り
隆子の茶の注といふ其付の茶式は松湯小湯と或は
茶と或は細末とをいしと抹茶といふ松湯小湯といふ飲

縣

今の子人の目も茶なり或は細末の茶式なり
固茶といふも松湯と松といふ松湯といふ茶式なり
ゆま今の子人の目も茶なり或は細末の茶式なり
論とある出成といふ事なり詳なり事ハ茶注といふ
茶と隆子と茶といふ事なり松湯といふ世の茶人
り松と隆子と松といふ事なり松湯といふ世の茶人
茶の道と松といふ事なり松湯といふ世の茶人
かありて其分御史を更の官ありて松湯といふ世の茶人
けありて其分御史を更の官ありて松湯といふ世の茶人
し或人希松と茶のありて事と云ふ松湯といふ世の茶人
と松と松湯小湯といふ事なり松湯といふ世の茶人

長安道より下るると一白出 して多の人よ上のりて附を
て懸く一守二の糸と命して甲しひ経書よとふんし貴
成におしふ其書或は布帛或は紙物にくりりてくひるる
けふ下るると一守二の糸と命して甲しひ経書よとふんし貴
のよまわると布帛紙物小布をよまわると其價は金銀と
るふし書と信んとして書物にりて我しとてつと附と目
珍物と書は是は物實なりけし書物よけいさき世の信人
是と好む程は上のりての物にふまふかしく活の七文字の文字
と法人小附とせり事ふおれと冠附ともは附はしき紙
書よなるまふ下附の書げとてと健信より書と知れ七
美附として懸るらんしつり程は詞はけくはるる
雨水の比し冠の文字とてかしくこの程は名七文字

△附ふとけ
むつしと
寫置り上
ふれ置る
文字は

あつた附とせり 賜自と分事とてとる附といふ
よ物書小附 其後又文字の冠ともかた下の七文字
り文字の初と止しに較の文字を附してかへりけ較と
るかられとて子較の書とてかへりて今附成
うし事なりぬふりていふ物書とて
かめ成ねしに柱を附といふに之附盛よる
つて年しきものいふ及ん士君子とて是とあり
得つんとしつり程は附とて多く成と信わす
ふと其の家成七の較とてとて事 上おけりて
高保の附とてとてとてとてとてとてとてとてとて
附して刑罰より者ありて今よとてとてとてとて

節制ハ俗樂中はしてはなるれもも二二東東線線の如くの隆隆也
小小河河もも凡凡俗俗の如くの樂樂の中小小之之流流行行の隆也
古古の鄭聲聲ハハ何何の聲也也孔子孔子の鄭聲聲を
ししてて事事にに用用ひひてて雅雅とと坊坊にに用用ひひてて取取ららずず也也世世小小雅
示示すす也也鄭鄭聲聲の流行行をを林林公公がが雅雅手手行行ににししてて
今今の世ハハ雅雅手手行行をを用用ひひてて取取ららずず也也世世小小雅
以以俗俗の衰敗敗をを事事ととししてて取取ららずず也也世世小小雅
朝朝庭庭にに用用ひひてて取取ららずず也也世世小小雅
中中古古白白拍拍子子今今拍拍子子をを用用ひひてて取取ららずず也也世世小小雅
大大段段の舞をを用用ひひてて取取ららずず也也世世小小雅
凡凡從從事事をを用用ひひてて取取ららずず也也世世小小雅

凡凡の如くの凡凡俗俗ハハ古古雅雅の如くの世世の如くの隆隆也
世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
女女子子の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
介介の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
東東の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
何何の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也
世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也世世の如くの隆隆也也

先づ一人は菩提をすむるんらとてわらへしを化さるる
多くは信者なりける武の御子とては常の事あり
たはるる一なる者事の喜母は是を用はるるがし。内
ふにたつきて其のそとふかたふ一節と明かす宿主の情を
のあふらるるもは伴の古人の御子とては。後
る世は運運のわらへしれもいとふ又世の常と知す
はる。いふかかききまきとては。あてたりとて。思
しおつた。只教ありたる御子とては。年かたつと。目
のこたへりいして。思ひまきまき。あてたりとて。思
接授といひし。目くは師。雅楽とては。常いひて。思
あへり。又武の御子とては。後未のくは。思ひまきまき。あ
うとて。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
折。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
諸。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
天子。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
ゆ。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
優。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
相。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
と。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
よ。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
所。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ
よ。思ひまきまき。あてたりとて。思ひまきまき。あ

直書

髪も武家と流石に髪を剃るも昔の鳥

とて髪よりしるは流石な

髪首のまはるは髪何と名つ

髪髪のをいとは髪と髪よりふ

髪髪を剃髪は髪の中にも剃

髪髪を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

髪の中を剃髪は髪の中にも剃

巻

改

